

地域の安全のために『一致団結!』

DAN!!

宮崎県消防団だより「ダン!!」

[Vol.17]

2022.3 “March”



地震と森林火災に備え 県防災ヘリ「あおぞら」と協力

川南町 防災ヘリ連携訓練

合言葉は、「それでもやっぱり消防団が好きだ!」

消防団員意見交換会開催

消防防災関連情報!!

宮崎県防災・危機管理情報

検索 宮崎県 防災



総務省消防庁のホームページ
<https://www.fdma.go.jp/>





要救助者の搬送



訓練開会式

地震と山林火災に備え 「あおぞら」と協力

川南町 防災ヘリ 連携訓練

令

和3年11月27日(土)、川南町東地区多目的公園で、

同町消防団員48名が参加し、県防災ヘリ「あおぞら」(以下、ヘリ)との連携訓練が行われました。

この訓練は、地震による人的被害と山林火災が発生したことを想定し、ヘリ特性を生かして、迅速かつ有効な対応を取ることを目的として行われました。

まず行われたのは、地震による

人的被害を想定した訓練。はじめに、団員は航空隊の指導のもと、

ヘリの離着陸を誘導するマーシヤラーとして必要な手信号の手順を学びました。その後、ヘリに要救助者を担架で搬送し、手信号を実

践。団員は防護ゴーグルを着用して、ヘリのホバリングで発生する強い吹き下ろしの風に耐えながら訓練に取り組んでいました。



ゴーグルを着用して手信号訓練を行った



機体には
最大700Lの
給水が可能

※実容量給水量は活動条件等により異なります。



川南町消防団
第1分団第4部
横尾 宙軌さん



団員になって12年目になりますが、ヘリ誘導のための手信号を訓練したのは初めてで、とても勉強になりました。航空隊員と連携する練習にもなっていたです。

山 林火災の想定訓練では、ヘリからの消火のため、消火栓からポンプを中継し、ヘリに給水。ホースの延長や中継ポンプへの取り付けなど、団員は慣れた手つきで対応していました。また、ヘリを空中停止させ、ホイスト※救助の展示も行われました。

※ホイスト装置／上空から隊員を現場投入したり、要救助者を収容するための吊り上げ装置



ポンプ中継



マーシャルの実践



「あおぞら」内部の展示

INTERVIEW

南海トラフ地震に向けてもヘリとの連携は重要です!!



川南町消防団 団長
長友 竜二さん

大規模災害時の救助活動は、人の力だけでは限りがありますので、ヘリとの連携はとても重要です。南海トラフ地震のような災害が起きた時に、今回訓練したことが生かされてくるのだと思います。また、今後さらに高齢化が進み、団員の人数も減ってくるので、ドローンの活用も考えていきたいです。

団員になってよかったこと

中邨 救命講習を通して応急手当普及員の資格を取ることができたことと、たくさんの方と出会えたことです。

吉田 団員との交流が深まることで人脈が広がったことです。自分たちの地域は自分たちで守るという意識も自然と強くなり、地域の方から労いの言葉を掛けてもらったりした時は、社会貢献している実感が湧きます。

黒田 県外からUターンで戻ってきたタイミングで入団したのですが、役場に勤めていることもあり、さまざまな業種の方と知り合えることで仕事もしやすくなりました。地域のお祭りに呼ばれて、郷土芸能をやったり、飲み会に参加させてもらったりなど、地域との交流が楽しいです。

松永 防災の知識を身につけられたことは良かったですね。私も役場勤務なのですが、仕事で消防団員とやり取りする場面もあり、部が違っても消防団という共通点から仲良くなっているの、仕事にも良い影響があります。

Public meeting

消防団員意見交換会 開催

令和3年10月22日、宮崎県消防学校で、県中地区の

若手団員と女性団員による意見交換会が開かれました。

司会進行は宮崎市消防団の酒匂浩司さんが務め、

10名の団員がそれぞれの活動や抱える課題などについて話し合いました。



森川 小さい頃から地元で神楽をやっていたので、地元の方との交流は元々ありましたが、入団してから、さらに地域の輪が広がりました。

重永 旦那と出会えたのが1番良かったことです。3年前には夫婦賞をいただきました。



前列左から、河野愛友美さん（川南町消防団・団員）、松木祐樹さん（高鍋町消防団・団員）、森川尚彦さん（新富町消防団・団員）、酒匂浩司さん（宮崎市消防団・団員）、黒田祐太さん（綾町消防団・団員）、中邨里香さん（宮崎市消防団・部長）、宮原明日香さん（西都市消防団・団員）。後列左から、重永仁美さん（木城町消防団・班長）、清水祐子さん（西都市消防団・団員）、南園秀幸さん（川南町消防団・副部長）、内田健太さん（木城町消防団・部長）、山中彩さん（高鍋町消防団・女性部部長）、廣井千枝里さん（西米良村消防団・団員）、黒木清香さん（西米良村消防団・団員）、吉田 豊さん（国富町消防団・団員）

現在は、娘が入団したので、次は家族賞を目標にしています。

河野 地域の方から「頑張ってるね」などと声を掛けていただけるのが嬉しいですよ。

宮原 保育士をしているので、応急救護の知識とやり方を習得できたことで仕事にも生かされていて、消防団に入って良かったなと思います。

活動をさらに良くするために

森川 自分の部やOBの方からの声を集めたのですが、一番多かったのが操法大会の採点方法についてです。最初の「集まれ」でズレが生じて減点されることがありますが、ちだと思うんですけど、本番の緊張した場面ですらうなことは仕方ない部分もあると思うんです。操法は、取り扱いの仕方を重視すべ





合言葉は、「それでもやっぱり消防団が好きだ！」

きなのに、規律の部分に厳しく、見栄えに重きを置きすぎであったり、実践的な操作を披露したりいいのではないかという意見や昔からのルールが多いといった声もありました。

河野 行方不明者の搜索活動は、管轄の自治体だけでなく、周辺からの応援を増やしていくことができますと発見率も上がるのかなと思います。

宮原 SNSでの情報発信が必要かなと思っています。消防団の楽しい部分や活動内容がわかる動画を作って広めていけたらいいなと思っています。

酒匂 宮崎市でもSNSの活用は検討中です。消防団活動は楽しいというのを口コミも使って広めるのもひとつの手かなと思います。

森川 飲み会の頻度や拘束時間が長い点など、昔からの風習を変えていかないと、新規加入は見込めない気がしています。

消防団イメージアップに向けて

吉田 消防団をより身近に感じて

もらうために、多岐にわたる活動があり、やりがいがあることを伝えながら、楽しい活動にするためにはどうしたらいいのか、団員、地元の方と話していけたらいいのかなと思います。

酒匂 非日常感がキーワードになるのかなと思います。制服を着ることや火災現場への出動、救命講習など、消防団員だからこそ味わうことができる経験ですね。活動が地域貢献につながっているんだというプライドにつながるし、それがやりがいになって活動が続けていけると思いますね。

黒木 出初式などの行事を通して、団員がキビキビと動く姿を地域住民に披露できる機会が増える、イメージアップにつながると思います。

松木 火災予防の広報期間中、小学生を消防車に乗せて巡回し、アナウンスをしてもらったことがあります。地域の方からの反響も良く、消防団に関心を持つてもらえたし、子どもたちに対しても、消防団員がカッコいいというイメージを持つてもらえたと思います。

こういった地道な活動で消防に興味を持つ人が増えていけばいいなと思いました。

意見交換会を終えて

黒木 今日の話参考にして、団員を増やす取り組みをしていきます。

宮原 これからいろんな経験をすることになりますが、楽しんで取り組んでいきます。

川南 消防団活動の必要性を知ってもらうことを意識しながら、より良い地域づくりを目指し、頼りにされる団員になりたいです。

重永 もっと保育園での読み聞かせを増やすなどして、子どもたちが家に帰って自分の親に消防団のことを話してくれたらいいなと思います。そうすることによって、



私たちの活動を知ってもらえるといいですね。

森川 団員確保に向けて積極的に活動していきます。自分が所属する団でも、団長と意見交換ができる場が設けられるといいなと思いました。

松木 自分たちが楽しく活動している姿を地域の方々に見せていくことが大切だと思いました。

黒田 地域の子どもたちに入団したいと思ってもらえるような消防団になりたいと思います。

吉田 各地の活動や団員確保に関する課題などを知れて良かったです。団員確保の問題もそうですが、年齢問わず活動できるような負担軽減も考える必要があるなと思いました。

中邨 自分の部は、女性が少ないので、団員確保を頑張ろうと思います。

酒匂 みなさんの今後のご活躍を期待しております。本日はお疲れさまでした。



ドローンの力を活動にプラス

近年、頻発化する災害時において、情報収集や物資輸送にドローンを使用するケースが多く見られるようになりました。個人所有のドローンを活動に使用する高鍋町消防団の甲斐宣行さんに、その良さを聞きました。



ドローンからの撮影

一定の速度を保った状態で、機体を旋回させたり移動させるのが難しいですね。指先の絶妙な力加減で機体の動きが変わってしまうので、練習が必要です。



操縦で難しい部分などは?

はじめは仕事絡みで使っていました。スポーツの試合やサーフィンを撮影しながら、上空から撮る映像の良さを感じており、消防団の活動にも生かせると思ったことがきっかけです。これまで、出初式や火災模擬試験、消火活動訓練などの場面で空撮しました。



使い始めたきっかけを教えてください。



ドローンを操縦する甲斐さん



ドローンを使うメリットはどんなところにありますか?

地上にはないアングルで全体を見渡せることです。例えば、山間部や沿岸部など、人の手が届かない場所での活用ができます。空間把握が容易にできるので、災害時は情報収

活動に役立っています!

高鍋町消防団第11部
甲斐 宣行さん



専用アプリを使い、スマホと連携させて扱う

※国や地方公共団体又は、これから依頼を受けた者が、事故や災害時に災害対応としてドローンを使用する場合には特例があります。



今後の展開として考えていることはありますか?

訓練時や有事の際に、空撮映像を本部とリアルタイムで共有できるように体制を作りたいと思っています。高鍋町消防団にドローン部隊が結成されても面白いですね。

集に役立てることができると思っています。私が使っているドローンは、「DJI Mavic Air」という種類なのですが、連続約20分の飛行と、最大時速約70キロメートルでの移動が可能です。ちなみに、使用が制限される場所もあります。空港が近いところや市街地、土地所有者の使用許可がないところはドローン飛行が禁止されています(※)。また、風が強い日と雨天時も、機体に影響が出てしまうため、使用が困難になります。



小林市消防団通信

小林市危機管理課
高妻 司さん



消防団への理解と加入促進に向けた取り組み

小林市

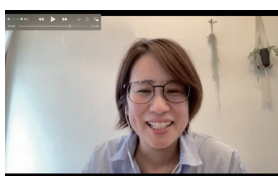
小

林市消防団では、『小林市消防団通信』を発行し、活動やイベント、団員募集にまつわる情報を発信しています。

「令和元年に第1号を発行し、令和4年1月現在、第12号まで発行しています。庁舎内と活動時の直接配布、市HPへの掲載とSNSの場で見てもらうようにしています」そう話すのは、作者の高妻司さん。同市役所に勤務する現役消防団員です。

また、同市消防団は女性部が中心となり、Instagram、Twitter、Facebook、LINEなど、公式SNSアカウントを

開設し、防災情報の配信や啓発活動を実施中。女性部員の岩切亜委さんは、「コロナ禍で、対面での活動ができなくなったので、紙芝居動画を制作して、SNS上で配信したりしています。実際に、SNSを見たことがきっかけで、加入にもつながっています。今後は、WEB上で入団できる窓口や、消防団に関する疑問のお答えページを作りたいです」と話します。



小林市消防団 女性部
岩切 亜委さん

木城小こども消防クラブが消防庁長官表彰を受賞

木城町

木

城小こども消防クラブが、全国の4千を超える少年消防クラブの中から、優良クラブとして、令和2年度消防庁長官表彰を受賞しました。

少年消防クラブとは、小学生から高校生までの児童・生徒が防火および防災について学習するための組織です。同クラブの受賞は、応急救護教室の受講や防火・防災ボスターの作成、木城町交通安全パトロールでの防災啓発活動などの取り組み

が評価されたものです。木城小では、地元消防団への理解を深めてもらおうと、4年生になると同クラブに入部し、1年間、活動に取り組むことになっており、現在は45名が活動しています。

木城町消防団員で東児湯少年婦人防災委員会の会長を務める眞鍋博さんは、「幼いうちから消防団のことを知ってもらい、将来的に、地元で消防団員として活躍してくれるようになるとうれしいですね」と話します。

東児湯少年防火委員会 会長
木城町消防団第1分団第5部
眞鍋 博さん

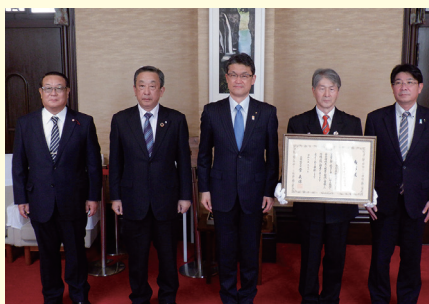


東児湯消防本部による応急救護教室の様子

椎葉村消防団が 令和3年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞

令和2年台風第10号の被災時に、延べ1,011名の体制で住民の避難誘導、救助・捜索活動のほか、民家周辺に流出した土砂の除去、被災した家屋の土砂除去に従事され、計19日間の活動期間で被害の軽減に多大な貢献をしたことを讃え、表彰されました。表彰状は令和3年11月17日に河野宮崎県知事から椎葉村消防団に伝達されました。

右から2番目が椎葉村消防団長の椎葉吉人さん



消防団だより「DAN!!」は紙だけではない!

電子ブックはもちろん。さらに読みやすくパワーアップ!!

紙＆電子版：消防団だより「DAN!!」特集ページ

WEB版：消防団だより「DAN!!」特集ページ



WEB記事へ!!

現場さながらの訓練で実践力アップ!! 潜入!!消防署・消防団の合同訓練



過去のアーカイブもWEB記事として閲覧可能です

WEBやスマホでは縦スクロールの方が断然、読みやすい!



インタビュー動画もあります



本城町の川原自然公園で、高橋・新宮・木城・川西の5町を管轄する宮崎県東洋消防組合と木城町消防団による合同訓練が実施されました。



消防団だより「DAN!!」特設サイトへ
スマホやタブレットはこちらから。



消防団員、募集中!

長濱 優さん
木城町消防団 女性部



宮崎県内の消防団では、18歳以上で消防団活動に参加できる人を募集しています。団員の年齢層は幅広く、また職業は自営業者、サラリーマン、学生、主婦など様々な人達が活躍しています。入団希望者は、お住いの市町村役場又は消防本部へお問い合わせください。

女性の団員も増えています!

一人暮らしの高齢者宅を訪問しての防火点検や子どもを対象にした防災教室のほか、応急手当の普及指導など、細やかな視点を活かしての防災啓発などを行っています。

この7年間で

32%増!!

消防団活動には女性のチカラが欠かせません!

令和3年
421名



平成27年
319名

(令和3年4月1日現在)

消防団の活動がわかる動画を配信しています!!



消防団の活動をわかりやすくまとめたアニメーション動画を Youtubeで配信中! ぜひ、上のQRコードからご覧ください。

地域の安全のために『一致団結!』

DAN!!

宮崎県消防団だより「ダン!!」

【Vol.17】

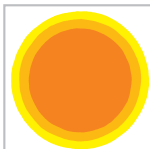
令和4年3月発行

【発行】

宮崎県総務部 危機管理局 消防保安課
〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号
TEL0985-26-7627 / FAX0985-26-3130

【企画編集・デザイン・印刷】

株式会社 宮崎南印刷
〒880-0911 宮崎市大字田吉350番1号
TEL0985-51-2745 / FAX0985-52-2682



日本の
ひなた
宮崎県